

令和8年度 臨時号

京都市立光徳小学校

光徳だより

kotoku elementary school

kotoku-s@edu.city.kyoto.jp

校長 田村 竜一



保護者の方におかれましては、いつも、本校の学校教育にご理解・ご協力ありがとうございます。



1学期にもお知らせしましたが、光徳小学校では学校教育目標を

『自ら学び 自信と誇りをもち 共に高め合う子の育成』
～かしこく やさしく 元気よく～

と設定し、学校教育を進めています。この目標のもと今年度も知・徳・体の3つのプロジェクトを立ち上げ、子どもたちの成長のため一丸となって取り組んでいます。

それぞれのチーム（プロジェクト）では、以下のような子どもの姿を目指します。

かしこくチーム（知プロジェクト）	やさしくチーム（徳プロジェクト）	元気よくチーム（体プロジェクト）
自ら学び よく考え 学び合える子 ～言葉に興味をもち、自ら調べ、 表現する子～	心やさしく ひとを大切にする子 ～係活動を通して役割を果たし、 自他ともに大切にしながら 主体的に関わる子～	明るく元気で たくましい子 ～身の回りの危険に気づき、 安全で元気に学校生活を 送ることができる子～

3つのプロジェクトの取組につきましては定期的にアンケートをとり、状況を把握するとともに、よりよい取組について教職員間で話し合い、改善しています。



この度、1学期の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。取組の具体につきましては2学期以降も学年便り等で掲載する予定です。ご家庭での話題に取り上げていただければ幸いです。2学期もよろしくお願いします。

<かしこく(知)>

知プロジェクトでは、子どもたちの語彙数を増やし、聞いたことや学んだことを自分の言葉で表現できる子を目指して取り組んでいます。

1学期は、「語彙数を増やす」を重点目標とし、毎日のスピーチや週に1回の日記、「言葉の宝箱」の活用などを通して、言葉への関心を高める活動を進めてきました。

7月に実施した児童アンケートでは、

「分からない言葉や表現があったとき、あとで調べることができた」という項目で、「できている」「どちらかといえばできている」と答えた子どもが全校の8割を占め、取組前より8%増加しました。

「言葉の宝箱」の活用や、授業の中で学んだ言葉を意図的に使う場面を増やしたことがこの結果につながったと考えています。



また、このことは、スピーチや日記の取組を分析した結果からも分かります。学習した言葉をスピーチや日記など実際の表現活動の中で活用する子どもが増えています。

一方で、同じ言葉に使用が集中する傾向も見られたため、今後はさらに多様な表現を身につけていくことを目指します。

言葉	回数
心に落ちる・印象に残る	18
感謝	6
完璧	2
無我夢中	2
はつらつ	1
後々に	2
かけがえのない	1
印象に残る	6
戸惑う	1
魅力的	1
目をうたがう	1
刺激的	2
気が重い	2
心が弾む	3
関心をもつ	1
驚愕	1
自然	4
気が引ける	1
興奮	1
気が進まない	1
清々しい	2
気がめいる	1
気が晴れる	1
くじける	1
不安	1
合計	63

スピーチは文字起こしをして、言葉の宝箱の中の言葉を何回使うことができたのかをカウントして比較しています。

左のように、スピーチにクラスで取り組み、文字起こしをしてカウントすることで言葉を使う回数の変化や、どのような言葉をよく使っている傾向があるのかを分析しています。そして、その結果を次のスピーチにいかしています。

2学期も引き続き、子どもたちの語彙力の向上と表現力の育成に取り組んでいきます。楽しみながら言葉に親しめる環境をつくり、特に3～6年生は国語辞典を積極的に活用し、自分で言葉を調べる習慣も身につけられるよう働きかけていきます。

また、「言葉の宝箱」を定期的に見返し自分が使えるようになった言葉や、今後使ってみたい言葉について考える機会を設けます。

保護者の皆様へのお願い

子どもたちの語彙力や表現力は、学校だけでなく家庭での会話を通して大きく育ちます。

ぜひご家庭でも、

- 新しく覚えた言葉や学校での出来事について話題にする
- 本や新聞、テレビなどで出あった言葉について一緒に話す

など、会話を楽しんでいただけると幸いです。

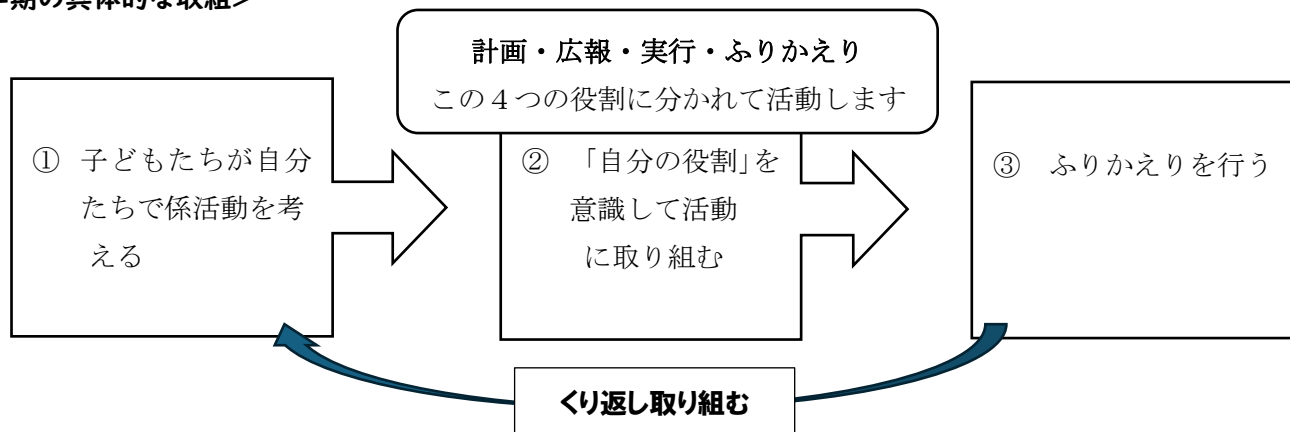
2学期も、子どもたちが豊かな言葉を身につけ、自分の考えや思いを自信をもって表現できるよう取り組んでまいります。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

文責 忠谷 真有子

<やさしく(徳)>

今年度の徳プロジェクトでは、**係活動**に注目して取組を進めています。学校生活の中で、友だちと楽しく過ごすだけでなく、「自分にもできた!」「自分がしたこと、誰かが喜んでくれた!」「友だちのこんなところがすごいな!」と感じる経験をたくさんしてほしいと思います。そこで係活動を通して、自分の得意なことやできることを生かしながら、誰かの役に立つ経験を増やしていきます。

<1 学期の具体的な取組>



<1 学期児童アンケート結果>

	3 月末	7 月	変化
全校	41%	61.8%	+20.8%

役割を明確にすることを大切にして取り組んだ結果、「**係活動に進んで取り組んでいる**」と答えた子どもが全校で**61%へと増加**しました。係活動の中で自分は何をすればいいのかが分かり、「自分も係の一員として活動しよう」という意識が少しずつ育ってきたことの表れだと考えます。

2 学期の具体的な取組

○係活動を自分たちで考え工夫する……アイデアを出し合い、活動内容を工夫します。計画、広報、実行、ふりかえりの役割に分かれ、それぞれの内容を生かして活動を進めます。

○「ありがとう」・「助かったよ」カード…係活動を通して感じた友だちの頑張りや工夫、よかったところや各係のよさを見つけ、メッセージカードに書いて伝えます。カードは掲示板に貼り、みんなで共有します。

○月1回自分たちの係活動をふりかえる…活動して終わるのではなく、活動のふりかえりを行い、
「クラスみんなが喜んでくれた」「自分にもこんなことができるのだ」
という気づきにつなげていきます。

保護者の皆様へお願い

「係活動、どんなことしているの?」「どんな工夫したの?」などぜひ、ご家庭でも聞いてみてください。

また、ご家庭でも「〇〇してくれてうれしかったよ」「〇〇してくれてとっても助かったよ」と、子どもたちの行動が誰かの役に立ったことを伝えていただけると嬉しいです。

学校と家庭で一緒に子どもたちの「自分の力を生かすことができた」「自分のしたことが誰かのためになった」という経験を増やしていきましょう。

文責:金田 織絵

<元気よく(体)>

体プロジェクトでは、子どもたちが身の回りの危険に気づき、安全に過ごすことができるようになるため、危機察知トレーニングやポジティブハザードマップに取り組んでいます。1学期は、子どもたちが学校生活の中の危険に気づき、安全について主体的に考えることができるよう、主に3つの取組を行いました。

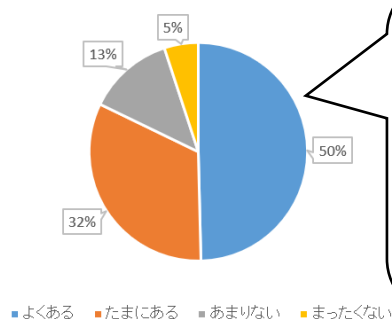
危機察知トレーニング(KYT)・・・学級活動の安全学習の際に、写真やイラストを活用し、どこに危険があるのか、なぜ危険なのか、どう行動すれば安全なのかを考える活動を行いました。

ショート危機察知トレーニング・・・週に1回程度、短時間で危険な場所や危険な行動について考える活動を行いました。日常的に安全を意識する機会を増やし、危険に気づく力を育てました。

ポジティブハザードマップ・・・校内の危険箇所を見つけるだけでなく、「もっと安全な学校にするためにはどうしたらよいか」という視点で考え、児童の意見やアイデアを集め、マップにして掲示しました。

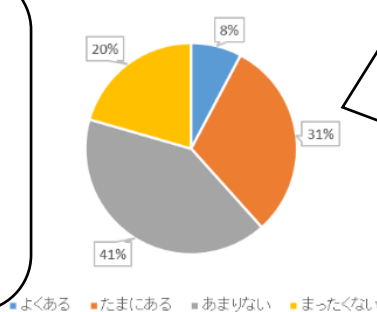
そして、1学期の成長度合いを確認するため、7月に児童アンケートを実施しました。

安全に気をつけているか



「よくある」「たまにある」が合わせて82%となりました。多くの子どもたちが、安全を意識して行動するようになってきています。

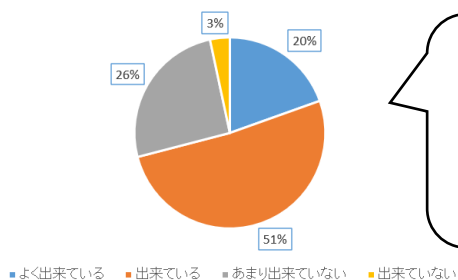
危ないと感じることがあるか



「よくある」「たまにある」が合わせて39%となりました。これは危険が増えたという意味ではなく、「危ないかもしれない」と気づく力が高まってきていると考えられます。

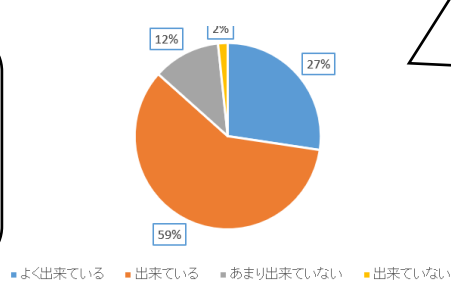
また、7月の保護者アンケートの結果は以下の通りです。

道を歩いているときに、周りをよく見て歩いている



71%の保護者の方が、子どもは周りをよく見て歩いていると感じておられます。

交差点で左右を見て、飛び出していない



86%の保護者の方が、子どもは左右を見て、飛び出さずに歩いていると感じておられます。

ここから、子どもたちの一定数は安全を意識して生活することができていることが分かります。しかし、日頃の子どもの様子を見ると、わかっているけど行動に移しにくい部分があります。そこで、2学期は以下の通りに取り組むを改善し、進めていきます。

危機察知トレーニング(KYT)・・・「安全な行動」に注目し、学校で起きそうな事例やヒヤリハットを題材とし、事故やけがをしないようにどうすればいいのか考えます。

ショート危機察知トレーニング・・・「安全な環境」に注目し、場所の写真から「もっと安全な学校にするためにはどうしたらよいか」について考えます。

ポジティブハザードマップ・・・環境の改善策やその理由などをマップに記していきます。可視化することで、子どもたち自身が安全な環境づくりをより意識していくことを目指します。



今後も、ご家庭と連携しながら、子どもたちが安全で安心して学校生活を送ることができるよう取り組んでまいります。学校での危機察知トレーニングの様子などご家庭でも聞いていただけると幸いです。

文責：宮川 幸輔